

令和元年度

国有林モニターアンケート調査結果
(第3回)



木曽森林管理署南木曽支署三殿土場で説明を聞く国有林モニター (R元.9)

令和2年2月

中部森林管理局

はじめに

国有林モニター制度は、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、広く一般から対象者を募っております。2年間の任期中、国有林野事業についての理解を深めていただくと同時に、皆様から幅広いご意見等をいただくことで、「開かれた国有林」にふさわしい管理経営を推進することを目的としています。

この度、「令和元年度第3回国有林モニターアンケート」を実施し、28名の方から回答をいただきましたので、その結果について取りまとめました。なお、記述式の回答については、一部を抜粋・整理して掲載しております。

今回アンケートにご協力いただきました国有林モニターの皆様に、厚く御礼申し上げます。

◎国有林モニターの構成

平成30年度・令和元年度は、30名の方に国有林モニターとなっていただいております。

(1) 性別

男性	21人
女性	9人
計	30人

(2) 年齢

	男性	女性
30～40才	1人	2人
40～50才	4人	3人
51～60才	3人	2人
61～70才	9人	2人
71才～	4人	
計	21人	9人

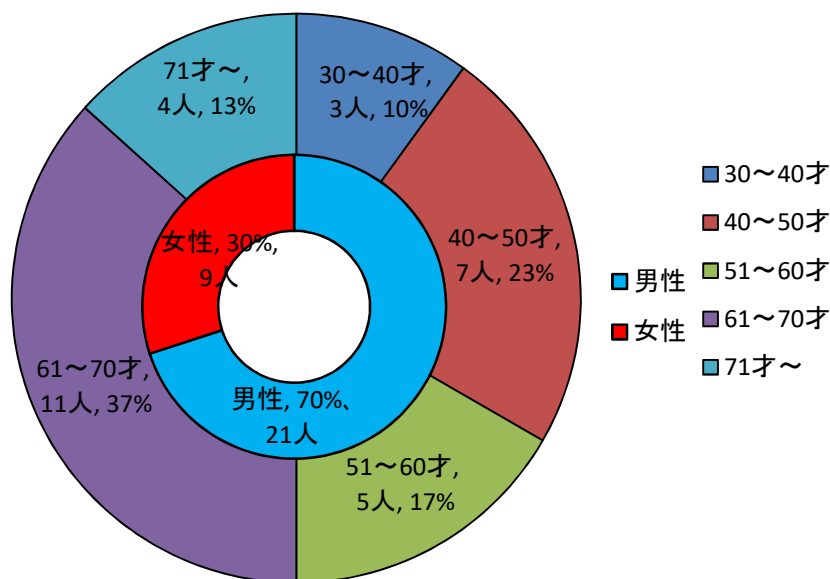
(3) 職業

会社員	6人
公務員	2人
施設職員	1人
自営業	5人
主婦	2人
その他	6人
無職	8人
計	30人

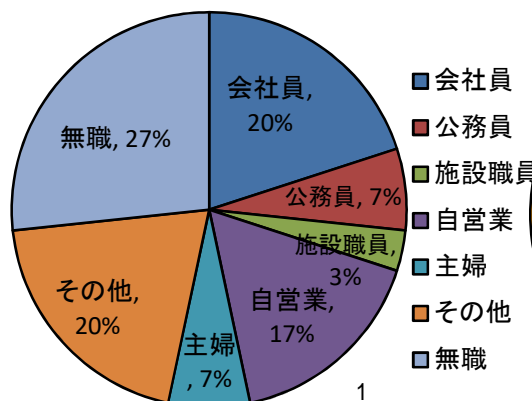
(4) 森林管理署等

富山	2人
北信	3人
中信	6人
東信	3人
飛騨	3人
岐阜	3人
東濃	4人
愛知	6人
計	30人

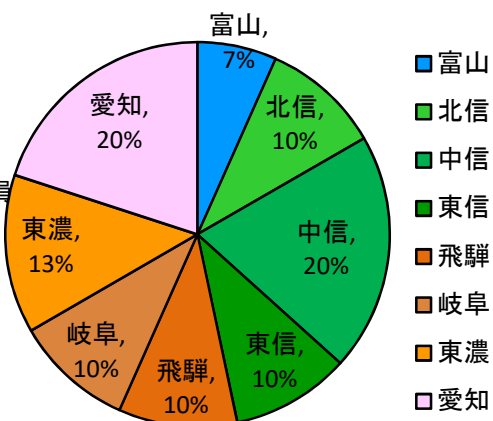
(性別・年齢)



(職業)



(住所の所在する森林管理署等)



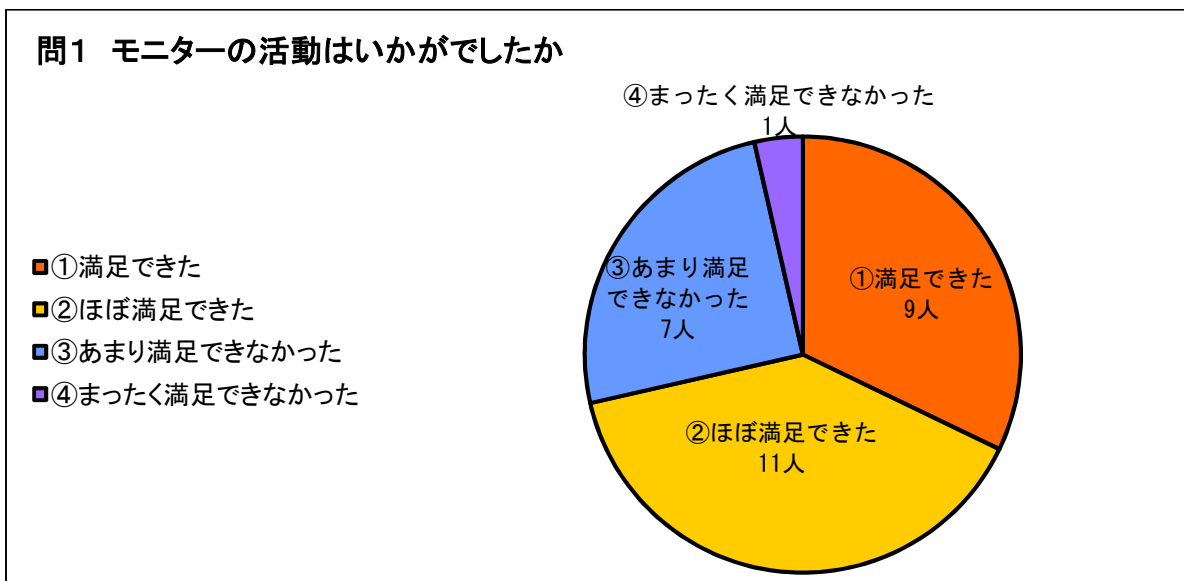
令和元年度国有林モニターアンケート(第3回) 集計結果

本アンケートでは、国有林モニターとして2年間、森林・林業や中部森林管理局の取組等に接する中で感じたことについて伺いました。

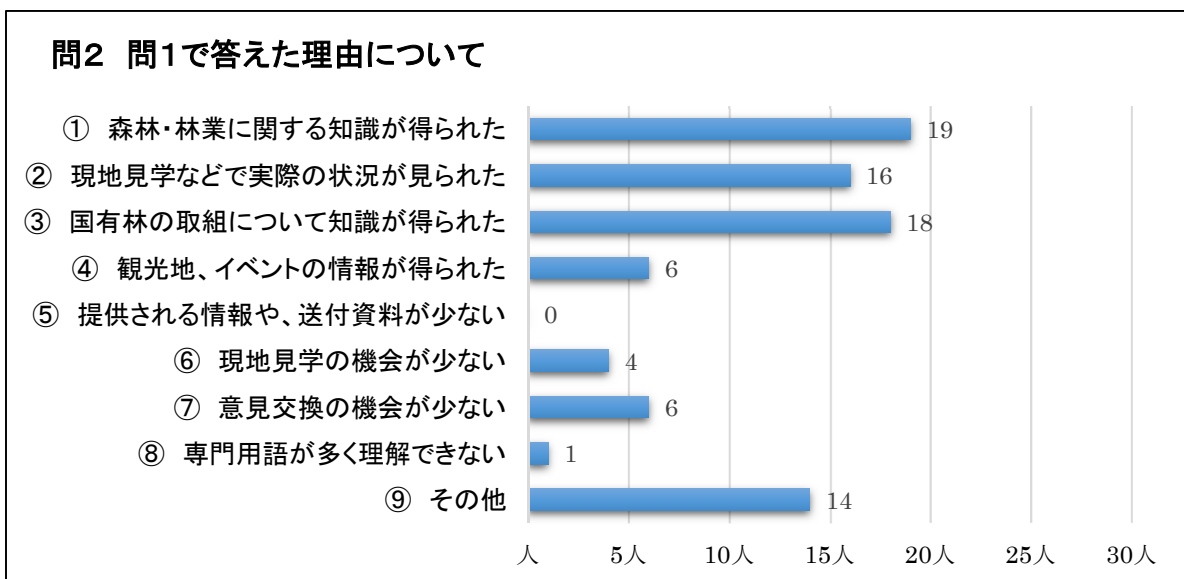
*「平成 30・令和元年度中部森林管理局の取組」は、中部森林管理局ホームページ(ホーム>森林管理局の仕事>事業の概要)に掲載されています。

1. 平成 30・令和元年度国有林モニター活動について

問1 モニターの活動はいかがでしたか。(該当するものに○)



問2 問1で答えた理由についてお聞かせください。(複数回答可)



⑨その他(記述)回答(一部抜粋・整理)

- 林野庁の方が、知見、最新の技術など先進的な取組を行なっている事を知る事ができた。
- たくさんのお話を学ばせていただきました。現地に行き、作業現場を見られ、林業の現状を知りました。
- 第一に国有林の状況の一端に直接触れることができました。次に広報誌を通じて広範な施策を学びました。そして森林管理の大切さや担っている問題点等について多く理解できました。資料は丁寧で分かり易くできていました。
- 職員の方に何気まなしに語りかけた時、「国有林の管理業務に、今は枝打ちがない」と返ってきた言葉に驚いたことがあります。こればかりではありません。林業の現状に多くの知識が得られたことは、モニターに採用頂いたお陰と感謝しています。
- 現地見学はとても貴重な体験ができてたいへん良かったです。自分の知識がなさすぎて、他の方との差を感じて恥ずかしくなりました。もっと勉強して行くべきだったと思いました。
- いろいろ専門的なことを知ることが出来て良かった反面、都合がつかずなかなか視察に参加出来なかったりと、知る機会をのがした部分もあった。
- イベントや意見交換の参加が出来ず残念であった。
- 現地見学の場所が自宅から遠くて、興味はあっても参加できなかったのが残念だったと思う。
- 現地見学に行く機会がありながら仕事の都合で参加できなかったのが残念でした。
- 1年目の現地見学の時、欠席してしまった影響は自分としては大きかった。百聞は一見にしかずではないが、もっと現場を知る機会が欲しかった。
- 大概満足できたが、多少回数が増えて構わないので、現場を見る機会が、もっと多くとれると良いと思う。
- 各々多忙なスケジュールではあるかと思いますが、日々の業務も大変だとは思いますが、出来たら国有林を直に管理されている森林官の方々と、もっと近い距離で色々なお話をしたかったと思いました。
- 国有林モニター活動を実施している目的の最優先項目、と実施結果のPDCAのCAの可視化が不十分ではないかと思う。今行っているモニター制度は林野庁として満足し、当初の目的を達成しているのか？

問3 モニターの活動として、今回行った「現地視察」「意見交換会」以外にやってみたかった活動がありましたらお聞かせください。(記述)

(一部抜粋・整理)

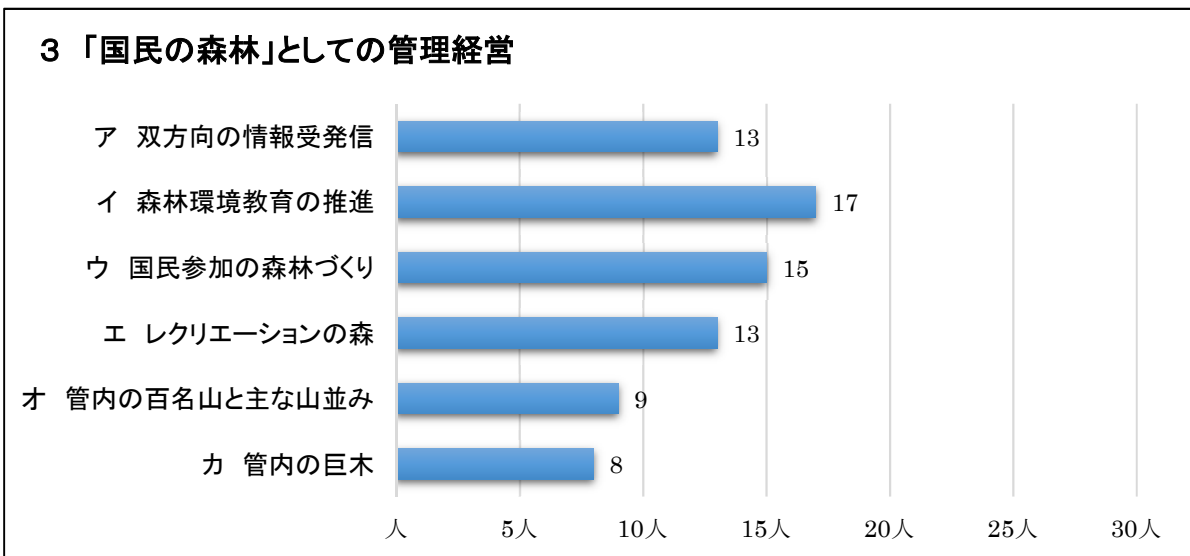
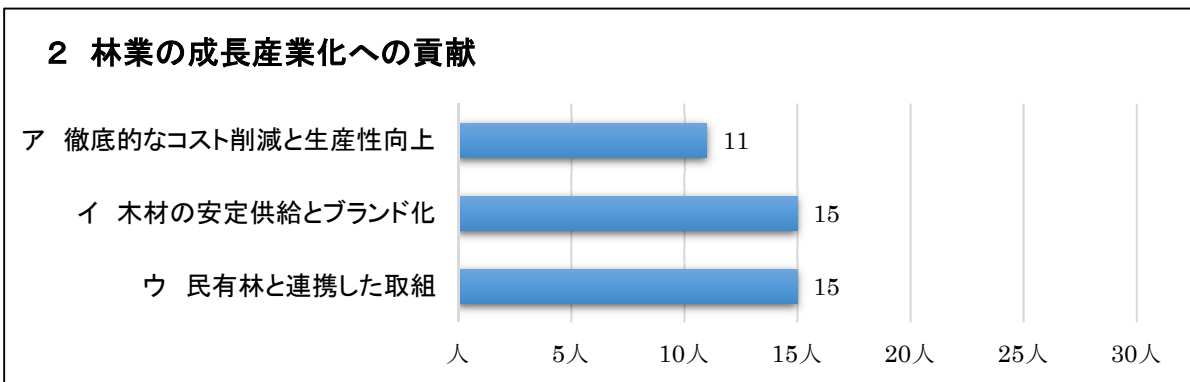
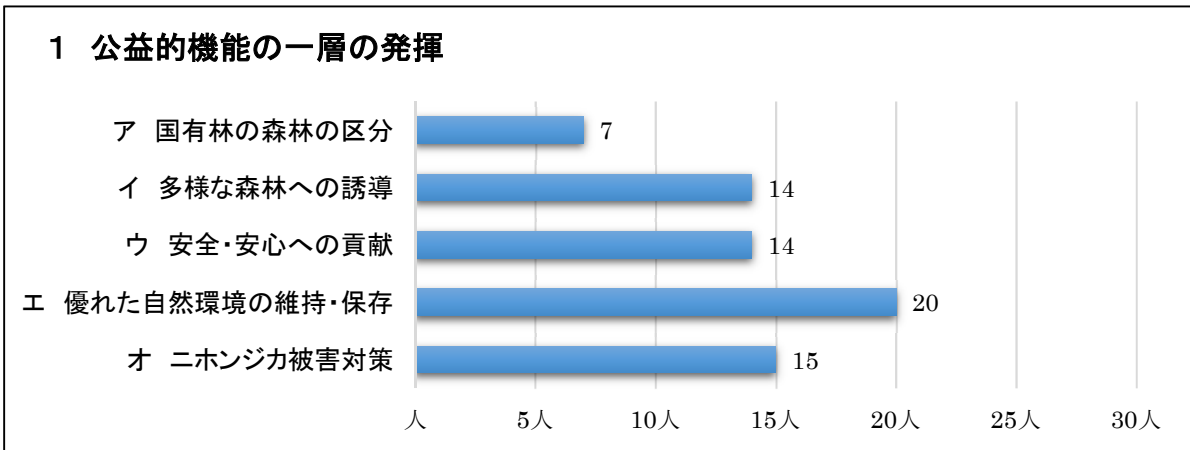
- 観光地のイベントへの出席
- 山へのぼる企画
- 国有林や、その区域内の登山道の整備の見学
- 国有林内での、下草刈りや植栽の作業及び自然探勝
- 木育の教育現場の見学
- 子供達と、山のどんぐり等ひろい、ポットにうえる企画
- 山の防災などの勉強会
- 地域住民との会話、課題、ニーズの掘りおこし



- 広報誌等に掲載紹介されていた森林に関する各種イベントにも、もっと積極的に関わってみたいかった。特に子供たちの森林に対する理解を深める活動に参画したいと考えています。
- 会議の際、折角の機会でもあり庁舎の案内を具体的にやっていただきたいかった。
- 毎月いただく広報と情報誌ありがたかったですが、映像を使った研修会等もやっていただけたら良かった。紙面を通してだけの情報だと理解がむずかしい。
- 事前に皆さんの業務内容について説明があれば、より一層理解するのに役立ったのではないかと感じました。
- 林業試験場の活動、研究内容、成果など知りたく思いました、これは今後の方向性、林業の別角度からの魅力がわかると考える為です。木曾町福島の御料館訪問等一緒に企画頂けたらと思います。
- 現場の最前線で活躍されている森林官の方々との交わりがあったら、より良かったです。
- 森林官の日常活動の報告と説明を受けて、質疑応答をするような場があったら良かった。
- 限られた予算や人員での制限はあると思うが、もう少し規模を小さくても身近に視察が出来たり、意見交換の出来る場の回数が増えればよいと思います。
- チェンソーなど使う仕事体験がしたかったです。体験会の活動をぜひお願いしたいです。
- 下刈りや間伐など、実際に職員の方達が行われる業務に参加する機会があれば良かったかなと思っています。危険が伴うことから、躊躇されるだろうと懸念されますが、こうしたことに興味を持つ人達が、モニターに応募したのだと思っています。
- 現場に余計なストレスをかけることは避けたいが、体験的内容が加わると、もっと充実感も得られるし、モニターとしての自覚も高まるのではないだろうか。
- 木材の搬出、運搬、加工などの現場に行き、携わっていらっしゃる皆さんに会って、お話を伺いたいと思いました。
- 国有林内で業務を受注している企業へ訪問し、取り組み等聞く機会があると良いのでは。
- 林業を学んでいる学生の、森のなかでの取組や作業活動、内容などを見ることができれば、学生の林業に対する意識や熱意など見る機会があると良いと思います。
- 民有林の様子や事業内容と比較する機会があれば、異なった視点から国有林理解が深まると思いました。
- 「見学会」や「交換会」以外にということではないのですが、モニターどうしの意見交換会をもっとやってほしかったです。他のモニターの方がどんな考えをもってみえるのか知る意味でも。
- 一般の方との意見交換会があれば、地元の方が何を考えているか知れるかも。モニターの人の意見がすべてではないと思います。
- 民有林の様子や事業内容と比較する機会があれば、異なった視点から国有林理解が深まると思いました。
- 富山県でもいろいろと実施してほしかった。
- 参加出来なかったものもあるので、どれがやってみたかったかどうか分からないが、それなりに十分な活動だと思う。

2. 中部森林管理局の取組について

問4 中部森林管理局の取組について、関心を持っていただいた取組がありましたか。
(複数回答可)



問5 問4で挙げた項目について、これまでのモニター活動を経験されて、取組状況が不十分であったり、改善が必要であるなどお感じのものがありましたら、取組名とご意見をご記入ください。(記述)

(一部抜粋・整理)

1. 公益適機能の一層の推進

【安全・安心への貢献】

○これだけ自然災害が多くなると、森林管理局に対する風当たりも強くなり、それなりの国民やメディアの目に触れる取り組みも必要になってくると思います。

○近年の自然の猛威やその自然災害の甚大な被害を見ると、国を挙げての国土保全の強靱化や防災対策などの必要性を痛切に思う。国有林という捉え方から「国防林」(日本列島・国土を護るといふ意味)とでもいうべき認識を、一国民としても持つべきではないかと考えます。農水省、国交省という枠組みを外し、広く日本列島を鳥瞰するような施策や捉え方に転換すべきではないかとも思います。

○国有林の役割について：国有林の9割が保安林であることに驚きました。木材の生産は全体から見れば業務シェアは低いという事でしょうか。又、自然災害から国民の生活を守るという観点で、近年ダムを壊し以前の森に戻すという方法もあると聞きましたが、それも考え方の一つですか？其の辺りについても知識を吸収したいと感じました。

○企業存続が至上命題の民間事業者と違い、日本独自の森林管理・国土保全・国民の財産を守る為の取り組みの実験林が、国有林の存在意義と思うので、効率とかコストにしばられることのない、思い切った実験をして貰いたい。

【ニホンジカ被害対策】

○なかなか被害が減らない気がする。もっと、効果の上がる方法がないか、他の国の現状を知り、対策をとるべきでは。先人の智恵を生かすとか。

○ニホンジカ被害対策が充分でないと思います。電気柵や罠などによる対策には限度があると思います。私は減少したシカ革やシカ肉の需要を増やす取組も、並行して実施する必要があると思います。

また、鉄分やミネラルが入ったブロックを置き、特定の地域に留まらせる方法も良いかと思っています。



2. 林業の成長産業化への貢献

【木材の安定供給とブランド化】

○木材のブランド化があまり浸透していない。学校の校舎をブランド杉(木材)でつくる等、公共機関の建物でPRを兼ねると良いのでは？

【民有林と連携した取組】

○荒廃地解消のためにも、民有林野との整備及び保全の促進に努めてほしい。

○最近都市部にまで猿が出てきたりするので、動物被害の対策について、一般の人への情報を早めに知らせるようにすることが必要かと思っています。

○国土保全、環境問題を主として、民有林への連携と指導強化、ニホンジカ対策強化は今後の重点課題として継続頂くべき内容だと思います。

3. 「国民の森林」としての管理経営

【双方向の情報発信】

○今回モニターをさせていただいたおかげで知ることのできた情報がたくさんあり、国民への情報発信の難しさを感じた。

○幅広く情報を伝えていけば、レクリエーションの森にしても、人が足を運ぶだろうし、百名山や巨木の紹介もより多くすれば、同じように人が運ぶようになり、知られていくのではと思う。(情報提供として、ネットばかりでなく、旅雑誌でも何でも少しでも記載出来たらと思う。)

○「あの山な一に」は、山好きの私にとっては、とても良い企画だと思います。スタートしたばかりなので、これからの中味の充実に期待しますが、森林管理局の建物からの展望は当然ながら、長野駅、松本駅、軽井沢駅などからの写真も掲載し、さらにその駅に展示したらよいのではと思いますが、局からの写真は 360 度でもよいのではないのでしょうか。

○モニターの回数を増やして欲しい。新聞などへの公報活動、記者の取材よびかけなど…折角の取組なので、多くの人に知って関心を持ってもらいたい。

【森林環境教育の推進】

○何をやるにおいても教育は非常に大切との観点からも、更なる推進をさせるべきと考えます。取組状況の数値も示されておりますが、もっともっと多くの人の参加を期待します。平成 28 年に祝日として「山の日」スタートしたのを良い機会ととらえ、多面にわたる環境教育などの普及啓発活動、今迄以上に推進を強く願います。

○「森林環境教育」について、管理署の皆さんが取り組まれている活動は、そのまま継続していただきたいと思います。しかし、今のままではごく一部の限られた人たちにしか伝わらないということが多くと思います。この活動をより効果的に、さらに広範囲に広げていくには、林野庁として文部科学省等の他部署と連携をし、学校教育の中(義務教育の授業)で、もっと森林や環境についての教育を推進していくように働きかけることが必要だと感じます。



【国民参加の森林づくり】

○国民に「親しんでもらう」ではなく、「主体として」森林を健全に守る気持ちや、コストを負担する覚悟・自覚を持たせるような取組に変えていくべきだと思う。

【その他】

○優れた自然環境の維持・保存、民有林と連携した取組、国民参加の森林づくりについては、モニター期間内に実感的に見聞できなかつたように感じている。

○地球温暖化や国民の健康志向の高まりなどから、現在ほど森林・林野行政に関心が寄せられている時代はありません。しかしながら、これが意識として人々の心の奥底にあるだけものであったのなら残念なことです。

○取組全ての項目が、誰もが何らかの機会に関わりたいと思っていることばかりかと思われまます。これらの項目に携わる皆さんには、モニター制度のように、啓発事業を含め、一般人が参加しやすい催しの開催などと取組まれるよう期待します。

○基本的に果題であるが、全ての手法が地味、硬い、伝統的、前例主義。現在の世の変化流れにマッチングしていない。民間の力を借り新たな手法、斬新的手法を取り入れないと、後 10 年同じパターンを続けても大きな変化は生じないのではないのでしょうか。

○広大な範囲において、それぞれの分野にバランス良く取り組むことはなかなか難しい面があると思います。このモニターを通し、工夫や努力の様子が伝わってきました。今後の継続的な発展を期待します。

3. その他

問6 モニターの活動について、ご意見やご感想をお聞かせください。また、森林・林業や国有林野事業等に対するご意見、ご提言、中部森林管理局に期待されることがありましたら、ご自由にお書きください。(記述)

(一部抜粋・整理)

○国土の3分の2が森林面積、その3割が国有林、これほど広大な国民の財産を維持管理されている皆さんの日頃の活動に敬意を表します。今後もこの貴重な財産を将来に亘り健全な状態で維持してもらいたいと思います。

○モニター活動の中で、林業が活性化の方向にすこしずつ進んでいることを知りました。しかしながら、林業就業者が増えないのも事実です。林業の作業単価を上げ、経営者及び林業従事者が誇りをもって林業に携わることができるよう当局の力添えを希望します。

○日本の森林管理の在り方を統括する立場として、国有林のみならず、全ての森林の将来的在るべき姿を、100年200年のスパンで考え、失敗を恐れず、勇気を持って実験し、民間にも、国民にも提示してもらいたい。効率やコストにしばられた、近視眼的発想からの批判。ポピュリズムに流れがちな政治に「忖度」することなく、取り組んで欲しい。



○森林関連法の改正によって、皆伐後の植林・育林が、ペナルティがない「努力義務」に格下げされた。意見交換会でも指摘されていたが、当り障りのない回答に終わったように感じる。成立してしまったものは止むを得ないので、ここは各局が踏ん張って、伐り逃げを許さない気骨を持ってやって欲しい。

○林業は対価を得るまでに相当な年数を要することから、若者が林業に関心を持つことが難しいのが現状だと思います。最近、岡山県でバナナの栽培を凍結解凍覚醒法により日本の何処でも栽培できる技術が開発され、既に商業栽培が行われています。この技術を利用し、成長の速い南洋材を日本でも栽培できる技術を開発できれば、現状より短期で伐採でき資金化できると思います。この技術開発を若者に託し、林業の活性化を図るべきだと思います。また、バイオマス発電についてまだまだ知らない方々が多いと思います。新聞で特集されたら良いと思います。

○林野庁の仕事の一部を見ることができました。地道な仕事をする人がいて、成り立っていることも事実です。機械化が進み、一段と進歩するでしょうが、後継者不足が心配です。

○林業の活性化も大切です。生産性を上げて、若い人の魅力のある職場にしなくてはなりません。すでに実施されていますが、ドローン等今迄以上に活用して効率アップ生産性アップして林業を盛り立てて行く必要があります。

○野山の荒廃が進むので今後それをどうやって止めるのか、集落の中で 1 軒だけ山に残ってしまう家などもあり、インフラはどうなるのかなど最近考えてしまうので、人が(山の仕事を)少なくなってどのように取り組むのかが気になります。

○私は山を含めた自然が大好きです。その中で圧倒的の大部分を占める森林は国の宝です。何としてもこの姿を次世代に伝えていく必要があります。その為に日常この管理をされている皆様、林業関係者皆様、是非々更なるご活躍を期待します。確かに地理的にも広い範囲、各種多方面の仕事等で地味な部分ではありますが、

プライドを持ってやって頂きたいと思えます。少しではありますが追い風が吹いています。祝日に「山の日や「みどりの日」又昨今では地球温暖化と、自然災害の増加等国民の関心が高まっております。そんな中、すでにやって頂いている森林環境教育等に今迄以上に注力して、子供の頃から自然森林に関心を持ってもらう必要があります。



勿論大人にも同様ですが、まず子供に森に入ってもらふ機会を多く、併せて環境教育を強力に進めたら如何でしょうか。

○次世代を担う子供たちに森林や山を知ってもらふきっかけを提供したり、また、子供たちを野外に引っ張り出す仕掛けをもっと作ってゆくべきと考えます。そのためには、小中高生を対象とした「楽しそう?」「面白そう?」「行ってみようかな?」といった体験型見学型ツアーを夏休みに企画募集するのはどうでしょうか? 森や山は遠くから眺めるだけではわからないもの。その中に入り込まないと始まらないから。こういった取り組みも期待します。

○私は障害者支援施設で働いています。時々、実習生達が見えますが、利用者さんの受けがいい(?)よろこんで下さるのは、中学生の職場体験、福祉体験です。まっさらな心で利用者さんに接して下さる姿に、こちら感動します。同じように言えるかわかりませんが、森林事業について小さいうちから知るなら興味がわくと思います。学校主催ではなく、森林管理局主催の、山へのとりくみをもっとふやしたらいいと思います。知らないだけで、興味のある子供達はけっこういると思います。知らないことが、差別、偏見を生むことも多いと思います。

○林野庁希望者が増え優秀な人材が入り、予算をより多く確保出来、国土保全や環境改善の国家の基礎的ポテンシャルを維持出来、発展させる為の、国民的関心や一大イベント(ワールドカップラグビー程ではなくても)を何かのきっかけで爆発させる戦略的発想のキーマンはいないのでしょうか? 又上層部はこの事についての興味はないのかな…ジリ貧にならない為に。

○蘭美林では豚コレラ対策の一つとして、靴の消毒がありました。局だけがやるのではなく、観光協会とか、地元公共団体にこういうことをやっているよと PR して、陰に働きかけることがあってもよいのではないのでしょうか。

○全体を通じて、一生懸命やっていることはよくわかりますが、内向きな傾向があるのではないかと感じました。

○林道のゲートの鍵が壊されるとか、コピーされるとかの話を耳にします。このような被害が日常化しているようなこともあるようですが、こうしたことにより起きる被害、問題点は内部処理することではなく、常に外部に発信すべきかと考えます。

○広報誌“林野”で毎年春に「みどりの女神」と1ページを割いている内容が貧弱で、美しい自然の大切さを伝える本誌にはとても違和感を覚えます。せつかくの大切なスペースをもっと有意義に活用して頂きたいと願っています。

○ニホンジカの被害対策などはさらに関心が深まりました。今後、できることをやっていきたいと思えます。

○シカ対策で付け加えたいのですが、やはり捕獲して、ジビエ料理とし、学校給食でどんどん使ったらどうでしょうか。昔、くじらの料理が給食で出た事を思い出しました。

○1.モニターのOB活動として来年度以降も参加できるようにして欲しい。

2.森林経営管理法と国有林整備の関係を知りたい。

3.森林税を国有林の整備にどう活用していくのかを知りたい。

4.松くい虫被害は、薬剤散布やくん蒸で、解決していないのに、なぜ継続するのか？まとめを行なって今後の方針を出してほしい。薬剤というと聞こえは良いが、殺虫剤と言うと、使用時に吸引しないようにと注意書きに記入されている。本当の所、安全なのか？(住民だけでなく作業にも)先端技術や研究者のいる林野庁で知見をまとめてほしい。

○森林モニター委嘱に際して、あらかじめ事業や林野行政の歴史や現状、更には将来の取り組みなどの講義研修機会を設ける必要があるかと思えます。現地視察の際も事前に研修をして出かけたのであれば、違った印象の見方が出来たかと思えます。

○林野庁、森林管理局、災害時などに於ける国交省との線引き、特にモニターとして参加させて頂いた森林管理局の業務範囲を最初に説明頂きたく思いました。理由として農水省に拠る基本計画、林野庁の白書概要、月刊林野、管理局発行の中部の森林等お送り頂き全体像は大凡理解させて頂きましたが、モニター会議では視点を何処に置いて発言すべきか迷いました。会議内容からして管理局管内で判断、回答頂ける範囲(モニター個人判断)の質問、意見に留めるべきか、頂いた資料の範囲内なら組織枠を超えていても方向性や展望などを教えて頂けるものなのか判断に迷った為です。

○モニタースタート時に年間予定表のようなものを提供することは大変意義あることだと思います。局の活動について、記者クラブに投げ込んでいるという説明がありましたが、私の経験からも投げ込むだけでは、記者が食いつくか、食いつかないかは記者の感性、趣味に頼ることになります。投げ込むだけでなく、記者に書かせるだけの関係を持つべく日常の発信力が必要かと思えます。○モニターの皆さんの多くは、時間的に余裕のある、シニア層が多いです。もう少し若い方が増えるとさらに良いと感じました。現地視察日程ですが、6ヶ月以上前にお知らせ頂くと全て参加できて良いと思いました。



○モニターの出席率から見て、平日に参加できることを条件にする方がよいと思います。3回とも半分の人しか集まらないことを考えると、モニターになっている意味がないと思います。

○日本の木を守るというすばらしい仕事を担っているということに感銘を受けています。中部地区が広すぎて全てを知ることができませんでした。もし可能であれば中部地区を3つくらいに分けてモニター活動をするという案もいいのではと思います。レクリエーションの森にこれからも機会があれば行ってみたいです。沢山の人が今よりもなおいっそう木について深く考え、知り、森を生かして行ってほしいです。輝ける森林にすべての森林になってほしいです。

○森林行政に全く素人である私たちの意見を、林野庁のエキスパートたちが採り上げ、採用されるなどは到底思えません。もし、事例があったのなら公表をお願いしたいです。モニターとして大変な励みになります。

○モニターに参加させて頂いたことで、知らないことがモニターを通じて知ることが出来ました。もっといろいろ、森林・林業や国有林野事業を、普通に話題に出るような記事で誰もが目につくような情報提供で、いろいろな人がどんな形であれ、少しでも関心をもってもらえたらと思います。



○身近な木の活用など、現地見学はたいへんためになりました。また森林のことにつ

いて、かなり幅広い活動があるのだということを知り、森林管理局の仕事の内容もわかりましたので、今後もっと勉強して自分でできることはやってみようと思うようになりました。

○やってみて、いろいろ新しいことを知れました。自分の未知の部分がたくさん知ることができて、うれしかったです。モニターの機会があったらまた、やりたいです。

○現地視察は仕事をしているため行けませんでした。このような取組を活性化すると良いと思います。

○モニターの皆さんや森林管理局の方々と直接御意見をうかがい説明をしていただくととても参考になる事が多いです。広く国民の意向や関心を高めるためにもモニター制度は続けてほしいと思います。

○モニターがあることも知らなかった。情報発信の難しさを感じた。活動等知ってもらうにはモニターは有効だと思う。今後も継続していただけたらと思う。

○モニター活動をしなければ知らない情報がたくさんあり、活動して良かったと思った。反面、このような活動をしていない人が大半なのに、そういった人たちが林野庁の活動を知る機会が少なすぎると感じた。モニター以外の一般の人たちに、もっと情報を伝える努力をしたほうが良いと思う。

○本年は大きな台風災害もあり、改めて森林の大切さを実感しており、またチャンスがあればモニターに参加したい。

○自然と直接対峙する貴重な部門を担当する部署であることが分かりました。取り組んでいる内容はむしろ地味で目立ち難いので、広報や教育への活動や配慮を計画的かつ継続して下さい。このモニター制度は私のような庶民のレベル向上に効果があります。

○最初は興味だけでモニターに応募してしまって、2年のうちの半分もモニター活動ができなくて、せっかくモニターになったのにもったいないことをしてしまったと反省しています。

○国有林の管理や経営を知ることで、林業就業支援アドバイザーの経験を生かし、林業の活性化に貢献したいとの思いで応募いたしました。国有林の管理等についていろいろ教えていただき、中部森林管理局や各森林管理事務所の皆様方が少人数で大変な仕事をされていることに感心いたしました。

○モニター制度は、広く一般の方たちに“森林”に目を向けてもらう一方で、現在の広報や取組みに関して意見を出してもらういい機会だと思います。今回、そのモニターとして活動できたことは、大変有意義でありました。私自身、森林づくりコンサルタント、森林施業プランナーとして集約化などの業務に携わる中で感じるのは、かつて森林とともに暮らしてきた日本人の“森林離れ”が想像以上に進んでいる



ことです。民有林の現場では「境界問題」をはじめ多くの課題も山積しています。高齢化社会となった今、地方紙の「おくやみ欄」には、毎日たくさんのご年配の方々が亡くなられた記事が載っていますが、特に木曾地方では『若いころは営林署に努めた』という方が多く見受けられます。以前は暮らしのなかに山があり、たくさんの人たちが森と関わっていました。営林署から管理署へ変わり、現場で森林の手入れをするのは民間の技術者に委ねられたわけですが、それも日本中で5万人を割るほどの少人数です。子供たちやその次の世代へ豊かな森林を残していくのは、私たち大人の大切な務めです。今後“持続可能な社会”を実現していくためにも「教育」は最も大切なものではないでしょうか。これからは省庁の垣根を取り払い“大人”の役目として、次の世代を育てていくことが重要だと感じています。

○最近、自然災害が多く、ヒノキやスギの針葉樹の皮のむかれた丸太が土砂と共に橋や家を壊している映像が、TVで放映される機会が多くなっている。一般の国民やマスコミは、「森林の管理」はどうなっているんだ、という林野庁に対しての批判の論調記事も増えているのも事実である。森林管理局の皆さんが、その矢面に立たされるのは、親近感を感じている者としては、残念極まりないことである。少しでも皆さんが努力しておられる姿を、すくなくとも私の周囲に説明し、理解してもらうようにしなければいけないと思うし、そのことがモニターの役割であろうと感じている。たとえ、仕事内容が変わり、立場が変わっても、現在の仕事や立場とのつながりをもっていただき、自分自身を高めていっていただきたいと思う。